「心の教育」学習資料集

小学校・低学年編

京の子ども 明日へのとびら

きょうの こども あすへの とびら

京都府教育委員会

とびらを　あけて

とびらを　あけると
何かが　きこえる
ぼくに　わたしに
ささやく　声が

ほら　花が　さいたよ
ほら　お日さまが　わらってるよ
ほら　友だちが　いっぱいだよ
いっしょに　あそぼう
いっしょに　学ぼう

とびらの　むこうには
何が　あるのかな
楽しみだな
早く　見たいな
さあ　わたしの　手で　ぼくの　手で
この　とびらを　あけよう
とびらを　あけると
やわらかな　光
さわやかな　風
そう　この　とびらの　名前は
「明日への　とびら」

京の子ども

明日へのとびら

小学校・低学年編

京都府教育委員会

もくじ

○第一部

1 あなたへの　おくりもの　永田　萠　4
2 わたし、あなた、家ぞく　瀬尾まいこ　8
3 ごっこあそびを　しよう　中西　進　10
4 ふたり　今江祥智　14
5 むかしの　子ども　澤田ふじ子　18
6 人を　思いやる　心も、人との　つながり　日野原重明　24
7 ジャッカルと　チンパンジー　梅原　猛　28
8 友だち　何人　できるかな　内田奈織　34
9 思いやりの　心を　もって　江口克彦　40
10 まわりの　けしき・心の　目　永田和宏　44
11 絵が　すき・人が　すき　畠中光享　50
心の　広場　56
ふみん　ほっとメッセージ(1)　57

○第二部

1 おてつだい　60
2 セミの　だっぴ・サケの　たまご　64
3 よかった　こと　68
4 ぼくの　なみだ　72
5 アサガオの　たねを　まいて　76
6 おもちゃまつり　80
7 とう校はんの　はん長さん　84
8 さか上がりが　できたよ　88
9 オオイヌノフグリ・ツクシ　92
10 いつまでも　元気でね　96
心の　広場　100
ふみん　ほっとメッセージ(2)　102
京都府あんない

この　しりょうしゅうは

あなたが　人間として，しあわせに　生きていく　ために，何を　たいせつに　すれば　いいのか，どう　すれば　いいのか，自分で　考え，みんなで　学び合う　ための　ものです。

第一部

第一部は、京都に　かかわりの　ある　方がたが、みなさんの　生き方を　おうえんする　ために　書かれた　文を　のせた　ページです。
＊人間として　生きて　いく　うえで　考えたい　だいじな　テーマが　あつめられて　います。

第一部の　あとは　「ふみん　ほっとメッセージ」の　ページです。
みなさんを　見まもり、はげます　ために　とどけられた　ふみんの　みなさんの　声を　しょうかいして　います。

1

あなたへのおくりもの

永田萠（ながた もえ）

ことばは　いいね
きみの　ことが　わかる
ぼくの　ことを
わかって　もらえる
ことばは　いいね
ぼくらを　しあわせに
して　くれる

たいせつな
ことば
たいせつに
つかおうね

ぼくたちは
どこか　少(すこ)しずつ　ちがうけど
同(おな)じなのは
今(いま)　いっしょに　生(い)きて　いる　こと
だから　友(とも)だち
ずっと　ずっと
友だち

2 わたし、あなた、家ぞく

瀬尾 まいこ

こないだ　まっ黒だった　くつ下　白く　なってる。
とれかかった　ボタン　もう　あぶなっかしくない。
ふかふか　おふとん、ぽかぽか　おふろ。
朝ごはん、きゅう食、夕ごはん。
ねえ、知ってる？

みんなって、気づかない　間に、
ちゃんと　まもられて　いるんだよ。

にっこり　わらって　みる。
おはようって　言って　みる。
はーいって　へんじ。
やっぱり　元気で　いる　こと。

ねえ、気づいてる？
みんなって、知らない　間に、だいじな　もの
ちゃんと　つたえて　いるんだよ。

3　ごっこあそびを　しよう

中西　進

みんな、おうちの　人と　いっしょに、お店やさんに　行った　こと　あるかな。

え、あっ　そうか。スーパーにしか行った　こと　ないか。

でも、まちに　お店が　ならんで　いるね。

何　売ってる。そうそう　お魚　お野

さい　おくすり　本（ほん）　いっぱい　あるね。
ちょっと　お店やさんごっこ　してみ
ようか。やおやさんが　いいね。
売る　人は　さあ　お野さい　いっぱい
ならべて　ならべて。
やあ　たくさん。だいこん　にんじん
キャベツ　セロリ　たまねぎ。
みんな　おいしそう。
買（か）う　人は　ならんで　ならんで。何を　買おうか　考（かんが）えてね。それか
ら　お金（かね）を　出（だ）して。はい　お野さい　もらって。わあ　買えた　買えた。
それでは　つぎは　電車（でんしゃ）に　のろう。

電車ごっこだ。
まず　えきいんさんが　いるね。えき長さんも　いるかな。
それから　うんてんする　人　車しょうさん　なりたい　人　手を　あげて。
みんな　きめたら　あとは　おきゃくさん。
さあ　お金を　入れて　きっぷを　買って。
みんなが　のったら　しゅっぱつ。
ガタンガタン　ガタンガタン。
えきに　ついたよ　おりよう　おりよう。
あ。
だれか　おしてるぞ。だめだめ　なか
よく　おりよう　そうそう。

えきを 出る ときは きっぷを え
きいんさんに わたそうね。
今日は まちに 出て 電車に のっ
たよ。楽しかった。
また いろんな 人に なって お店
やさんごっこや 電車ごっこ やりたいね。
買いものも 電車に のるのも どん
どん 上手に なる。
わあ うれしいな。

4　ふたり

今江　祥智

くらくて　せまい　木の　うろ※で　目を　さますと、白フクロウの　子は、ふわりと　外に　とび出した。木が　びっしりと　ならぶ　林の　中を　うまく　とぶのにも、もう　なれた。えさを　見つけて　とるのも、うまく　なった。けれど、その　あたりには、だーれも　いない。

この　広い　林は、ぜーんぶ　おまえの　ものだよ――と　言いのこして、父さんと　母さんは　行って　しまった。

それは　そのとおりだけど、なんだか　すかすかするなあ――と、白フクロウの　子は　林の　中を　とび回りながら　思っている。

※木に　できた　あな

毎日毎日、おんなじだ。この 林には、だーれも いないんだ。だったら、その ことに なれて いくように するぞ——と、白フクロウの子は 思うように なった。

（ぼくが 大きく なって、もっと 遠くまで とべるように なれば、なかまとだって 出会えるよな、きっと……。）

自分に 言い聞かせるように、そう 思う ことに した。それなのに、林の 中を とびながら、いつだって 「だれか」を さがして いる。

「やあ、元気？」

「ああ、今日も 元気だよ。きみは？」

と だけでも 話せると いいのになって、思って いるからか。

体が むずむずするので、白フクロウの 子は、冬が おしまいに なったのだと わかった。林の 中を とび回っても、林も なんだか むず

むずしている　みたいだ。白フクロウの　子は、むずむずする　つばさを
広げて　林の　中を　とび回った。
と、目の　下を、ちろろ……と　うごいたものが　いる。ふわりと
とびおりたが――（だれも　いない。見まちがえかな……。）と　思って
とび上がりながら、そっと　下を見ると、目の　下を　また、ちろろ……。
まちがいなし。だれか、だ。
「……きみ、だーれ？」
思い切って　声を　かけてみた。
「……モ・モ・ン・ガ……」
と、その　だれかが　答えて　くれた。そして　木と　木の　あいだを、
ふわんちろりと　とんでいる。
（とべるんだ！　ぼくと　いっしょだい。）

と、白フクロウの　子は、うれしくなった。

「やあ、元気？」

「……ああ、元気だよ。きみは？」

「元気。友だちに――なってくれる？」

「……うん。いいよ。」

二人に　なった　白フクロウの　子と　モモンガは、林の　中を　ふわりちろりと　とびながら、そっと　あいての　ことを　ながめあった。

（とぶの、うまいんだ、ぼくと　いっしょ。）

――と　どちらも　思い、それだけでも　うれしく　なった。

（きっと　ちゃんとした　友だちに　なれるよな……。）とも　思っていた。

林中に　〝春〟が　じんわりと　広がりはじめている。

5　むかしの　子(こ)ども

澤田(さわだ)　ふじ子

今(いま)から　ずっと　むかし、みなさんの　おじいさんの　おじいさん、そのまた　おじいさんたちは　どんな　くらしを　して　いたのでしょう。わたしたちが　すんで　いる　この　国(くに)では、長(なが)い　間(あいだ)　のうぎょうが　たいせつな　おしごとでした。みなさんの　おうちの　人(ひと)は　会社(かいしゃ)や　お店(みせ)で　はたらいて　いたり、いろいろな　おしごとを　して　いたりするでしょう。けれど　むかしは、ほとんど　みんなが　のうぎょうを　して　いました。

のうぎょうという しごとは、一人では 何も できません。田んぼを たがやすのも、水を やるのも、たくさんの 人の 力が ひつようです。だから それぞれの おうちは 家ぞくが とても 多く、おじさんや おばさんや いとこや……おおぜいで くらして いました。

そんな 家には もちろん、みなさんのような 子どもも たくさん います。その ころ、学校なんてものは

ありません。じゃあ　あそびたいほうだいですって？　ざんねんながら　そんな　ことは　ないのです。なにしろ　たくさんの　子どもたちが　いっしょなのですから、いつのまにか、年上の　子どもが　小さい　子の　見まもりやくに　なります。それに、すぐ　目の　前の　田んぼで　お父さんや　お母さんが　はたらいて　いるのだから、あそんでなんか　いられません。しごとで　つかう　道ぐを　はこんだり、ご

はんを　作る　てつだいを　したりも　します。
だれかに　言われて、おてつだいを　するのでは　ありません。大人が　はたらくのを　見て、子どもたちは「何か　自分でも　できる　こと」を　さがします。大きな　子どもは　大人の　てつだいを　しながら　ほかの　子の　世話を　します。小さい　子どもは　みんなの　めいわくに　ならないように　わがままを　言いません。
のうぎょうは　とても　たいへんな　おしごとです。お日さまが　かんかんでりでも、雨ばかりでも　だめです。あつい　日も　さむい　日も　あります。それでも　みんな　がんばって　はたらきました。
秋には　田んぼに　いろいろな　ものが　みのります。みのった　ものを　とり入れる　ときは、大人も　子どもも　大いそがし。一年間、みん

なが　力を　合わせて　そだてて　きた　ものを　手に　する　日なので、みんなが　え顔です。自分が　おてつだいを　した　田んぼや　はたけから、お米や　おいもが　たくさん　とれた　ときの　うれしいこと！　そして　みんなで　何かを　する　楽しさったら　ありません。

むかしの　子どもたちは、こうして　大人と　いっしょに　がんばるなかで、一人では　何も　できない　こと、人と　力を　合わせる　ことを学びました。学校は　なかったけれど、みんなと　いっしょに　力の　合わせ方を　知る　ことが、むかしの　べん強だったのです。

今、みなさんは　学校で　おおぜいの　お友だちと　べん強を　して　います。その　べん強の　なかで、人と　力を　合わせる　こと、自分にできる　ことを　見つける　ことも　学びましょう。弱い　子を　いじめ

ては　なりませんね。みんなで　力を　合わせる　ことこそ、むかしから　かわらない　わたしたち〈人間(にんげん)〉としての　生き(い)方(かた)なのですから。

6 人を 思いやる 心も、人との つながり

日野原 重明

　みなさんも、兄弟も、りょう親も、人間は だれ 一人、一人きりで 生きて いく ことは できません。みんな、たすけ合って 生きて いるのです。

　みなさんが 食べる ものは のう家の 人が 作って くれるし、毎日 家の 中に つまれる ごみは、これを もって いって くれる 人が 毎朝 早くから はたらいて あつめて くれて います。

　また、バスに のって 出かけるには、バスの うんてん手さんが 朝でも 夜でも はたらいて みなさんを のせて くれます。

学校に　行くと　先生が　べん強の　しかたを　教えて　くれます。びょう気に　なれば、おいしゃさんや　かんごしさんが　あなたの　びょう気を　なおして　くれます。

地きゅう上では　みんなが　それぞれ　たすけ合って　生きて　いるのです。みなさんは　何を　するにも　なかよく　いっしょにし、また　た人の　ために　何が　できるかを　いつも　考えて、よい　ことを　行って　ほしいのです。

みなさんは　みな「いのち」を　もって　いるでしょう。体の　中のどこに　いのちが　あるかと　きかれると、なかなか　答えられないでしょうが、いのちを　もって　いる　ことは　みなが　かんじて　いるで

しょう。

その　いのちは　このように　せつ明すると、もっと　みなさんに　はっきりするでしょう。

あなたは　朝　おきてから　何を　しましたかと　きかれると、顔を　あらった、朝ごはんを　食べた、学校に　行って　べん強を　した、きゅう食を　食べた。午後は　うんどう場で　ボールあそびを　やった。家に　帰ったら　おやつを　食べた。しゅくだいを　した。夕ごはんを　食べた。それから　テレビを　見、そして　夜　九時から　朝　六時まで　ねた。そう　みな

さんは　答えるでしょう。ところで、それらは　みな　あなたの　ために　やった　こと　ばかりでは　ないでしょうか。そう、みんな　自分の　ために　やった　ことでしょう。あなたが　もって　いる　時間、あなたが　自分かってに　つかえる時間。それが　あなたの　いのちなんだよ。

その　いのち、あなたの　つかえる　時間と　いう　いのちを、みなさんは　自分だけの　ために　つかって　いないでしょうか、と　言われるとこれからは　だれか　よその　人の　ためにも　その　時間を　つかってみようかなと　考えて　みませんか。

いのちを　自分だけに　つかわず、た人の　ためにも　つかう　こと、ほかの　めぐまれない　国の　人びとにも　つかう　こと、それが　あなたの　いのちを　ほんとうに　つかう　ことに　なるのです。その　ことを　あなたたちに　しっかり　考えて　ほしいのです。

7 ジャッカルと チンパンジー

梅原 猛

このごろ、めったに 見られない どうぶつの 生活を 見せる テレビ番組が ときどき あります。わたしは、このような 番組を 見る ことが 大すきですが、この間、ジャッカルの 親子の ありさまを 知らせる 番組を おもしろく 見ました。ジャッカルと いうのは オオカミの なかまですが、もうじゅうと いわれるような 強い どうぶつでも生きて いく ことが なかなか むずかしい ことが よく わかりました。お父さんと お母さん、そして 人間で いえば 小学生くらいの お

◀セグロジャッカル

姉さんと、生まれたばかりの　二ひきの　赤ちゃんという　ジャッカルの家ぞくです。この　五ひきの　家ぞくを　やしなう　ために、お父さんジャッカルは　毎日　かりに　出かけなければ　なりません。しかし、えものは　なかなか　見つからず、ジャッカル一家は　おなかが　すいているのです。たまたま　お父さんジャッカルが　えものを　くわえて　帰って　くると、口から　えものの　肉を　さし出し、まず　赤ちゃんに　食べさせます。

かりには　お母さんジャッカルも　くわわる　ことがあります。その　ほうが　うまく　かりが　できるからです。その　ときは、のこされた　二ひきの　赤ちゃんジャッカルが　心ぱいです。大人の　ジャッカルが　い

ないと、子どもばかりの　ジャッカルを　おそおうと　する　どうぶつが　たくさん　いるのです。しかし、そんな　ことも　知らずに　赤ちゃんジャッカルは、すあなの　中から　はい出して　あそびに　行こうと　します。その　とき　お姉さん　ジャッカルは　子どもながらに、赤ちゃんジャッカルが　あなの　中から　出ないように　かんしを　して　います。その　ときほど、この　お姉さんジャッカルの　目が　らんらんと　光って　いる　ときは　ありません。

お父さんジャッカルと　お母さんジャッカルが　えものを　持って　帰って　くると、家ぞく　みんなで　なかよく　食じを　します。それを　見て、わたしは、休みの　日に　家ぞくで　ピクニックなどに　出かけ、おべんとうを　広げて　なかよく　食じを　して　いる　わたしたち　人

間の　家ぞくの　ことを　思い出しました。

　また　ある日、チンパンジーの　生活を　うつす　テレビ番組が　ありました。チンパンジーの　中にも　あまえっ子が　いるのです。ところが、もっぱら　お母さんが　あたえる　食べものしか　食べない　この　あまえっ子の　お母さんが　しにました。すると、この　子どもは　いっさい　ごはんを　食べなく　なりました。しんだ　お母さんの　かわりに、おばさんの　チンパンジーが　その子の　せわを　するのですが、あまえっ子の

▲チンパンジー

チンパンジーは、おばさんが「食べろ　食べろ」と　いって　食べものを口の　前に　さし出しても　食べようとせず、とうとう　しんで　しまいました。

　また　ぎゃくに、たいへん　かわいがって　いた　子どもの　チンパンジーが　しんで　しまったのに、お母さんチンパンジーは　子どもの　ことが　あきらめられず、しんだ　子どもを　かたに　かついで　歩き、ついには、ミイラのように　なった　子どもを　せおって　くらして　いるお母さんチンパンジーが　テレビに　うつされました。

　この　チンパンジーの　番組を　見て　わたしは　なみだを　さそわれましたが、このごろ　人間の　せかいでは、子どもを　ころした　お母さんや、お母さんを　ころした　子どもの　話が　聞こえて　きます。このような　人

間は　ジャッカルにも　チンパンジーにも　おとると　いっても　よいでしょう。

　みなさんの　多くは、お父さんや　お母さんに　あいされて　いるでしょう。そのように　自分が　もらった　あいを、やがて　自分の　子や　まごにも社会にも　かえすような　人間に　なって　ほしいと　思います。みなさんの　中には、お母さんを　なくした　人も　あるかも　しれません。じつは、わたしも　赤んぼうの　ころに　母を　なくして、おじさんと　おばさんに　そだてられました。そのような　場合、だれかが　お母さんの　かわりに　なり、子を　そだてます。今の　日本では　そのような　家ぞくのあいの　むすびつきが　うすくなって　いる　ようです。その　あいの　むすびつきを　とりもどす　ことが、今　いちばん　たいせつな　ことであると　わたしは　思います。

8 友(とも)だち 何人(なんにん) できるかな

内田(うちだ) 奈織(なおり)

わたしの いちばんの お友だち、ハープ。
みなさん 知(し)ってますか？
高(たか)さが 百八十(ひゃくはちじっ)センチメートルく
らい、おもさが 五十(ごじっ)キログラム
くらい。ハートの かたちで、
げんが 四十七本(よんじゅうななほん) はって
あり、ゆびで はじいて

音を 出します。

そうそう、天しが もって いる たてごとを 大きくしたような ものです。金色で、お花の もようの かざりも ついて いるのですよ。

とっても とっても、すてきな 音色が するのです!

子どもの ころから、音楽が すきでした。

ようち園の ころから、ピアノを ならいはじめました。ピアノの 先生は、ハープも ひかれます。ピアノの おけいこに 行ったら、となりに ハープが おいて あって、いつも 気に なって いました。

ある とき、先生に 少しだけ さわらせて いただきました。

ぽろろろろん……まほうのような 音が したのです。

この 楽きを ひきたいよう!

ハープとの 出会いです。

小学校五年生の ころに はじめました。

おけいこするには、ハープが いります。

うーん……。 デパートや ふつうの 楽きやさんには 売って いません。お父さんと お母さんが さがして きて、買って くれました。

ある 日 家に 帰ったら、ハープが ありました。やっと 会えたね、という 気もちでした。

さいしょは ゆびが いたくなり、ちまめや 水ぶくれが たくさん できたけど、でも ひいて いる うちに、だんだん いたくなくなって、とっても 楽しく なって きました。

毎日 おけいこしないと いけないので、早く 家に 帰らないと い

けません。みんなと ゆっくり あそべないのは ちょっぴり さみしいけど、ハープの ためだったら だいじょうぶ！ 上手に なりたいと 思って、毎日 毎日 れんしゅうしました。音楽家に なりたい という ゆめを もって。

それから ずっと ハープを ひいて います。

そして ハープの おかげで、たくさんの お友だちが できました。

いっしょに コンサートする なかまたち。

フルートや ヴァイオリンや サックスや……

みんな　なかよしです。

コンサートが　おわって、今日も　楽しかったね、おつかれさまと　言い合います。

おてつだいを　して　くださる　人たちには、いつも　はげまされます。

そして、聞きに　来て　くださった　おきゃくさんが　にこにこ　わらって　いるのを　見るのが、いちばんの　しあわせなのです。

そうそう、もうどう犬の　お友だちも　できました。

ペギーちゃん。

目が　ふじゆうな　人を　たすけて、とても　えらいのですよ。いつもコンサートを　聞きに　来て　くれます。ことばは　通じないけれど……いつも　見まもって　くれます。

ほかにも いっぱい……かぞえきれないくらい！
たくさんの 人と 出会いました。その ぜんぶの
人たちが、わたしを ささえて くださいます。
わたしの いちばん すきな ことは、ハープを
ひく こと。

やめたいと 思った ことは ありません。
ほんとうに つづけて きて よかったあ。
大すきな ハープと 出会えて、その おかげで
たくさんの 友だちと 出会えて、毎日 楽しいもの！
みなさんも、大すきな ゆめを 見つけて、つづけて くださいね。
すてきな お友だち、何人 できるかな！

9 思いやりの　心を　もって

江口　克彦

きみは　自分の　ことを　どう　思って　いますか。

明るい、やさしい、わんぱく、おとなしい、わがまま、いたずらずき……。いろいろな　とくちょうが　ある　ことに、気が　つきますね。いい　ところも　あれば、これを　直したら　もっと　よく　なる　ところも　あるでしょう。それを　ぜんぶ　合わせたのが　きみなのです。そして、せかいには　およそ　六十五おく人と　いう　たくさんの　人が　いますが、きみと　同じ　人間は　ぜったいに　いないのです。つまり　きみは　せかいに　たった　一人だけの　だいじな　人です。すごいですね。

それでは、きみの となりに いる 友(とも)だちを
かんさつして みましょう。
友だちは きみとは ちがった とくちょうを
もって います。その 友だちも せかいで
たった 一人しか いない 人なのです。それは
きみが せかいで たった 一人だけの だいじ
な 人というのと 同じ ことです。
ところで、きみは 友だちと どんなふうに
つながりを つくって いますか。
だれかに 親切(しんせつ)に されたら うれしい 気(き)も
ちに なるでしょう。いじわるを されたら か
なしく なったり、はらが 立(た)ったり しますね。

からかわれたら　くやしい　気もちに　なりますね。そんな　気もちに　なるのは、きみが　自分の　ことを、せかいに　一人しか　いない　だいじな　人だと　知って　いるからなのです。

　きみは、自分が　だいじな　人であるのと　同じように、友だちも　だいじな　人だと　考えることが　できますか。

　大人も　ふくめて　みんな、自分の　ことがだいじなのは　よく　わかって　いるけれど、それと　同じくらい　友だちも　だいじだと　わかるのは、いがいと　むずかしい　ものです。でも、それを　きみに　わかって　ほしいし、きっと　きみ

は　わかる　ことが　できると　思います。友だちは　こんな　ことを　されたら　いやだろうなあとか、こんな　ことを　話したら　楽しい　気分に　なるだろうという　ことが　わかる　人に　なって　ほしいと　思います。

それが　できるような　気もちを　思いやりと　いいます。

思いやりの　心を　もって　話を　したり　あそんだり　していると、おたがいに　して　いい　ことと、しては　いけない　ことが、だんだん　わかって　きます。そうしたら　きみは、しては　いけない　ことや、友だちが　いやな　気分に　なる　ことを、ぜったいに　しなくなるでしょう。

そんな　きみの　行いを、みんなと　いっしょに　くらして　いく　社会では「せきにんある　行どう」と　いいます。きみには、そんな「せきにんある　行どう」の　できる　人に、ぜひ　なって　ほしいと　思います。

10 まわりの　けしき・心の　目

永田　和宏

どのくらい　花の　名前を知って　いますか。タンポポ、チューリップ、バラ、コスモス。きっと　もっと　知って　いますね。

道ばたに　花を　見つけたら「あ、あそこに　タンポポが

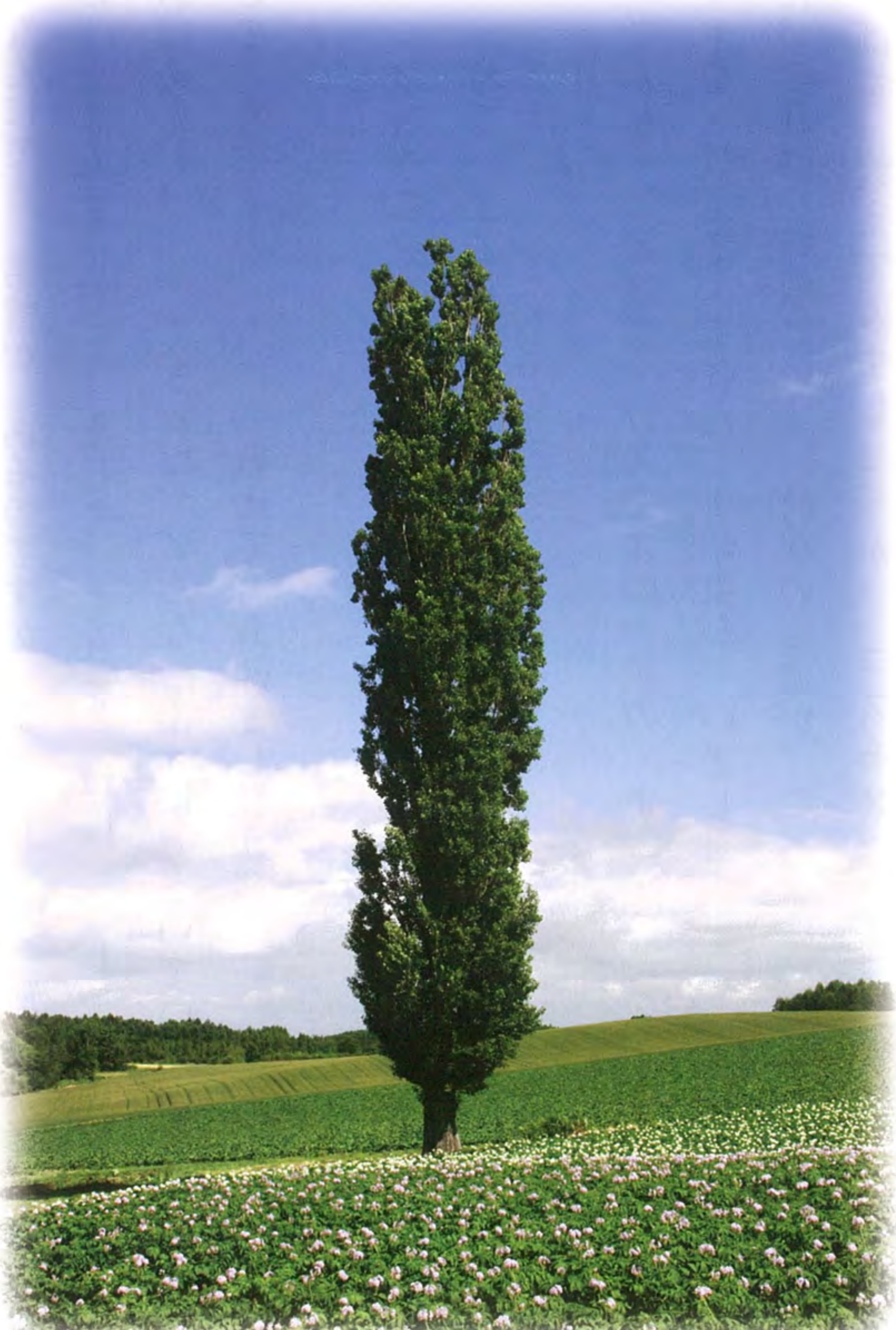
さいてるよ」と、友だちに　教えて　あげるでしょう。名前を　知って　いて　よかったと　思いませんか。名前を　知らなかったら、教えて　あげる　こともできないものね。

花だけでは　なくて、道ばたの　草にも、みんな　名前が　あります。でも、草の　名前を　知らない　人の　ほうが　多いでしょう。草は　どこにも　いっぱい　生えて　いるから、草が　生えて　いる　ことにも　気が　つかない　人の　ほうが　多い。だから　へいきで、ふんづけて　歩いて　行って　しまいます。

あなたの　家の　にわに　生えて　いる　草を　見て　ごらんなさい。その中で　五つでも　名前を　知って　いる　人が　いたら、とても　すごい。大人でも　五つ　言える　人は　少ないでしょう。

花や 草だけでは なくて、どんな 木にも 名前が あります。「あのせの 高い 木」と 言うより、「あの ポプラの 木は せが 高いね」と 言えたら、とても すてきだと 思いませんか。夜の 空を ながめたら、星にも ほんとうは みんな 名前が ついて います。

名前を 知らないと、草が そこに 生えている ことにも 気が つきません。名前を 知らない 草は ちっとも かわいく ありません。でも、名前を 知っていると、どんな 小さな 草でも とても たいせつに 思えてきます。あの 木とか、あの 星とかしか 言えないと、その 木も 星も ちっとも おもしろく ありません。道ばたの 草の 名前を 一つ 知って いるだけで、その 道も、そこに 生えて いる 草も、そのまわりの けしきも、みんな とても すきに なって しまいます。



なんにでも　名前が　あるのですが、まず　花の　名前、草の　名前から
おぼえてみませんか。そして、それを　口に　出して、ことばに　して
おぼえましょう。できれば、どんな　ふうに　さいていたかを、ことばに
して　家ぞくの　人に　教えて　あげましょう。

コスモスが　風にふかれて　少しずつ
ねていきました　音もたてずに

こんな　ことばで、コスモスの　花の　ようすを　教えて　くれた　小学生が　いました。これは　短歌という　詩なのですが、ことばを　数えてみましょうか。「コスモス

が」で　音が　五つ、「風に　ふかれて」は　七つ、というふうに、五、七、五、七、七に　なって　いますね。こんな　ふうに　ことばの　数を　きめて、まわりの　けしきを　ことばに　してみましょう。歌うような　気もちで、草や　花や、木や　風や、そして　まわりの　けしきを　ことばに　して　みると、どんな　小さな　草も、とても　かわいく、たいせつに　思えるように　なるでしょう。そして、それまで　気が　つかなかった　木や　草や、いろんな　けしきが　見えて　くるように　なるでしょう。

11 絵が すき・人が すき

畠中 光享

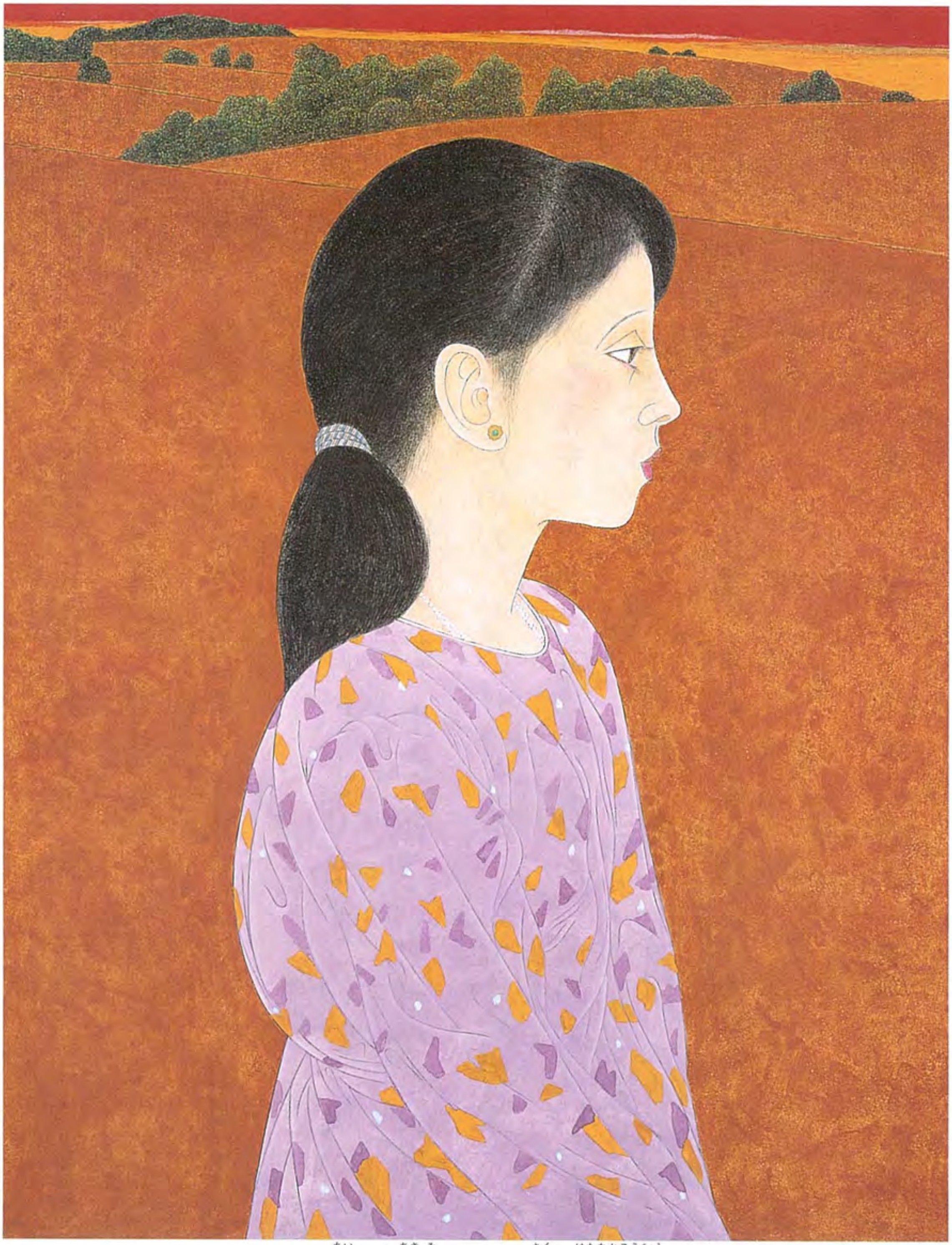
日本は 春夏秋冬と いった きせつの へんかが あります。それに より けしきの 見え方が ちがいます。また そこに ある 草や 木も 花が さいたり、みが できたり、はの 色が かわったりします。京都は まわりが 山に かこまれ、川が ながれて ゆたかな しぜんに めぐまれて います。わたしたちは その しぜんの うつくしさや おそろしさから 多くの ことを 学ぶことが できるのです。うつくしい ものを うつくしい、きれいと かんじる 力を だれもが もって います。きれいな 花が さいたとか、きれいな 人だとか かんじる こ

とが できます。しかし、いつも ちゅういして 見たり、気に して見たりしなければ じつは 何も 見て いなかったり、見おとして いたりします。絵を かくには ものを 見る ことが たいせつです。しっかり 見る ことによって 新しい はっ見や、考える ヒントを見つける ことが できます。みなさんが かん字を おぼえるのに、頭の 中だけでなく ノートに 書いて おぼえて いくでしょう。絵も見るだけでは なくて、かきかさねる ことによって より うつくしさを見つける ことが できます。

わたしたちは 目で 見たり 耳で 聞いたり、何かに ふれたり、かおりを かいだり、口で あじわったり して かんじます。それらは人によって かんじ方が いろいろ ちがいます。何かに ときめいたり、

かんどうしたり　する　すばらしい　心が　人間に　あたえられて　います。絵は　目で　見て　かんじられる　げいじゅつですが、みなさんの　かんじる　力を　つかって　絵を　かいたり、見たりして　心を　ゆたかに　そだてて　生きて　いきたい　ものです。

　わたしたちは　一人で　生まれて　一人で　そだって　きたのでしょうか。けっして　そうでは　ありません。ことば　一つにしても　自分で　つくった　わけでは　ありません。ふくや　シャツ　一まいでも　多くの　人びとの　手に　よって　つくられて　います。それは　日本人だけとも　かぎりません。じつは、ちょくせつ　目に　見る　ことは　できなくても　せかいじゅうの　いろいろな　人びとと　つながりあって　います。絵や　音楽など　げいじゅつには、国と　国の　わけへだてが　ありません。う



▲「小さい秋見つけた」作：畠中光享

つくしいものは　どこの　国の　人が　見ても　聞いても　うつくしいものです。やさしい　絵が　かければ　やさしい　人間に　なれるはずですし、うつくしい　絵が　かければ　心も　うつくしく　なるはずです。

絵は　しぜんとの　ふかい　かかわりが　あります。絵のぐは　もともと　しぜんの　いろいろな　色の　石や　土や　しょくぶつなどから　つくられて　きました。かく　ための　ざいりょうも　紙や　ぬのや　いたといった　しぜんの　めぐみを　つかって　きました。このように　しぜんの　ざいりょうで　しぜんの　うつくしさを　絵に　かく　ことに　よって、このよに　生きる　ことの　ありがたさを　考えさせて　もらえます。

絵は　せかいじゅうで、また　遠い　むかしから　かきつづけられて

きました。むかしの　絵や　今の　絵を　見る　ことで　わたしたちに力を　あたえて　くれたり　生きる　よろこびを　あたえて　くれたりします。また、外国の　絵を　見る　ことで、新しい　見方や　うつくしさを　教えて　もらう　ことも　あります。わたしたちは　何にでも　おもしろさを　かんじる　ことが　たいせつだと　思います。よの中には　いっぱい　知らない　ことが　あります。せかいじゅうには　いろいろな　人びとが　います。絵を　かいたり　見たりする　ことによって　いろいろな　人たちと　かかわり、生きる　ことの　いみや　すばらしさを、かんじる　人と　なりたい　ものです。

心(こころ)の 広場(ひろば)

◇心に のこった 学(がく)しゅう

◇しんけんに 考(かんが)えた こと、だいじだなあと 思(おも)った こと

☆今(いま)までの わたしに ついて 思って いる こと

きみも　みに　つけよう　社会の　マナーや　ルール

ふみん　ほっとメッセージ(1)

おおきに（ありがとう）
あなたの　え顔
すてきだね

あなたの　やさしさを
友だちに　つたえてよ

たすけ合い
なかよくしよう
だれとでも

やめようよ
自分かってな
行どうは

京の　子どもは　みんな
すなおな　心で　うれしいな
じいちゃん　ばあちゃんも
うれしい

ありがとう
すてきな　ことば
合い（愛）ことば

あなたの　一言　心に　ひびく
ありがとう

あいさつは
友だちづくりの
名コック

え顔　もつ
そのような　子ども
けんこうだ

きみも　みに　つけよう　社会の　マナーや　ルール

おれいはね，
「すみません」より
「ありがとう」

あいさつ

すてないで　道ろは　きみの
ごみばこじゃない

やくそく

ポイすては
心も　町も　きずつける

はぐくみ

いそがずに
とう校するよ
早おきで

やくそく

やってみよう！
だれかの　ために
小さな　親切

つながり

まもろうよ　社会の　ルール
正しくね

やくそく

あなたの　メッセージを　ここに　書きましょう

第二部

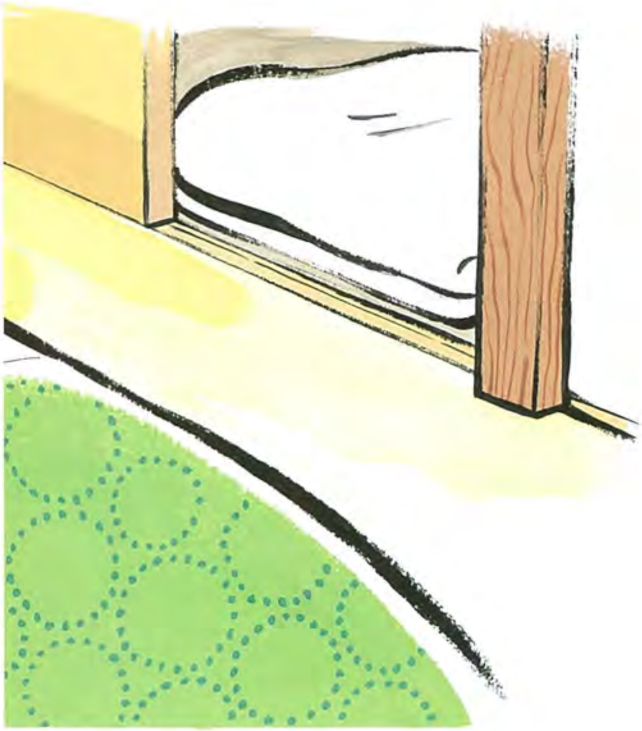
第二部は、みなさんと　同じ　京都府の　小学生が　ゆめや　ねがいを　もって、自分の　ことや　まわりの　ことに　ついて　書いた　作文を　のせた　ページです。

＊また、それぞれの　作文に　たいして、「おうえんメッセージ」が　よせられて　います。

第二部の　あとは　「ふみん　ほっとメッセージ」の　ページです。
みなさんを　見まもり、はげます　ために　とどけられた　ふみんの　みなさんの　声を　しょうかいして　います。

1 おてつだい

お母（かあ）さん、いつも　おてつだい
を　させて　くれて　ありがとう。
お母さんと　いっしょに　するの、
うれしいよ。お父（とう）さんと　いっ
しょに　するのも　うれしいよ。



おふとんを　きれいに　しくからね。毎日（まいにち）　するからね。お母さんも　お父さんも　よろこんでね。

おてつだい、
がんばるからね。

冬休みから　ずっと、おふとんしきの
おてつだいを　よく　がんばって
くれて、ありがとう。
おもい　ふとんを　おし入れから　出して、シーツの　しわを
のばして、みんなが　気もちよく、
ぐっすり　ねむれるように　気を
つけて　やって　くれて　いました。
これからも　よろしく　おねがいします。

お母さんより

おうえんメッセージ

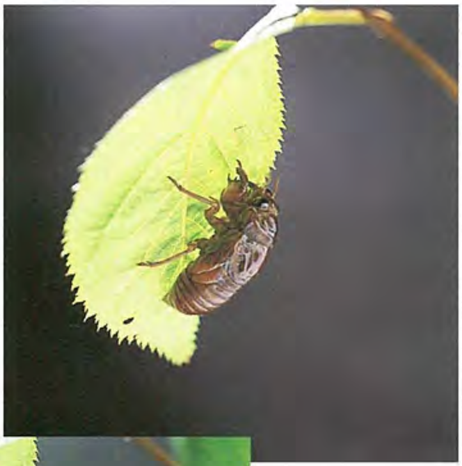
梶田 真章

大すきな　お母さんや　お父さんと　いっしょに　一つの　ことを　するのは　楽しいね。「おてつだいを　させて　くれて」と、書いて　あるのが　とても　うれしいです。お父さんや　お母さんの　ために　何かを　して　あげるのでは　なく、自分が　させて　もらうという　気もちで　おてつだいを　すると、ありがとうの　心が　すなおに　つたわり、お母さんや　お父さんとの　つながりを　強く　かんじる　ことが　できると　思います。毎日　同じ　ことを　くりかえすのも　とても　だいじな　ことですね。くりかえして　する　ことで、自分が　できる　ことが　少しずつ　ふえて　いきます。ごはんの　あとかたづけなど、おてつだいする　ことを　ふやして　いきましょうね。

2 セミの だっぴ・サケの たまご

◆ぼくは、弟(おとうと)と いっしょに、セミが だっぴする ところを 見(み)ました。

からを やぶって 頭(あたま)から 出(で)て きました。



◀アブラゼミの だっぴの ようす

はじめの　色（いろ）は　みどり色で
した。アブラゼミでした。

ちゃんと　かえって　くれて　よかったです。

◆今日、由良川に　サケを　見に　行きました。
メスの　中の　一ぴきは、たまごを　うんで、ボロボロに　なって　川に　うかんで　いました。
サケの　赤ちゃんは　アメリカまで　たびを　して、大きく　なって　由良川へ　もどって　くる　そうです。
元気に　帰って　くるように　ねがって　います。
わたしは、森も　川も　まもりたいです。

▲たまごを　うむ　サケ

おうえんメッセージ

河合雅雄

どうぶつって、ふしぎな　力を　もってるね。土の　中で　くらして　いた　かいじゅうの　形を　した　セミの　よう虫が、へんしんして　羽を　つけて　空を　とぶんだから。サケの　赤ちゃんは、一人で　太平洋を　おうだんして　もどって　きた。すごい力ですね。

セミも　サケも　うまれ出た　新しい　せかいに　むかって、一生けんめいに　生きて　います。みんなで　おうえんしましょう。そして、ぼくも　わたしも、まけないように　がんばりましょう。

3 よかった こと

わたしは、学校で よかった ことが いっぱい あります。

ないて いる ときに、
「ないたら、なみだが なくなる
で。」
って、さおりちゃんが 言って くれ
ました。

こけた ときに みんなが、

「だいじょうぶ。」
って　言って　くれました。
べん強が　わからない　ときに、
「こうするんやで。」
って　言って　くれました。
きゅう食が、どうしても　食べられ
なかった　ときに、ゆきえちゃんが、
「がんばれ。」
って　言って　くれました。
かぜを　ひいた　ときに、まりちゃんと　えみちゃんとが、
「早く　なおってね。」

って　言って　くれました。
わたしが　さみしい　ときに、
六年生が、
「どうしたの。」
って　聞いて　くれました。
わたしは、小学校に　入学して、
よかった　ことが　いっぱい　あ
りました。

おうえんメッセージ

永田 萠

よかった　ことや、楽しかった　こと。これまで　たくさんあったよね。これからだって　たくさん　あると　思うの。でもちゃんと　書いて　おかないと、そんな　たいせつな　ことも、いつのまにか　わすれて　しまったり　するの。

大人に　なって、子どもの　ころの　よかった　ことや　楽しかった　ことを　思い出そうと　しても、あんまり　思い出せなくてざんねんだって　人は　たくさん　います。わたしも　その　一人。

「よかった　「こと」を　読んで、わたしも　小学校で　同じような　ことが　あったなぁ、って　思い出しました。なかよしだった友だちの　顔もね。あの　ころの　友だちは、今も　友だち。だれに　とっても　学校って　そういう　ところで　あって　ほしいなと　心から　ねがいます。

4 ぼくの なみだ

なみだには、いろんな なみだが あるんだよ。
お姉(ねえ)ちゃんと けんかして ないた ことが
ある。言(い)い合(あ)いを して くやしい なみだ。
友(とも)だちに いやな ことを された
ときも、くやしい なみだが 出(で)るよ。
ぼくが つくえの 上(うえ)を かたづけ
ないから、お母(かあ)さんに しかられて

ないたよ。これは　かなしい　なみだだよ。

お母さんと　買いものに　行った　とき、お母さんと　はぐれて　一人ぼっちになって　ないた　ことも　あるよ。これはこわいから　ないたんだよ。

子どもは、こわい　とき、くやしい　とき、いやな　とき、いたい　とき、かなしい　とき、いろんな　ときに　いっぱい　なくよ。だけど、大人は　子どもみたいに　いっぱい　なかないよ。大人もなきたい　ときは　あるよ。でも、がまんして　いるんだと　思うよ。

なく ことは、わるい ことじゃないと思うよ。いい なみだも あるんだよ。お母さんが はじめて しごとに 行く とき ないたよ。ちゃんと しごとが できるかなと 思って ないたよ。

ひさしぶりに、おばあちゃんに 会えた ときも ないたよ。入いんして いた おばあちゃんに 会えて、うれしくて ないたよ。

なみだが 出るのは、弱いんじゃないよ。強くて やさしいから、なくんだよ。

おうえんメッセージ

西本 吉生

「ぼく」って、きっと、やさしくて、たくましい　子なんでしょうね。

そうですよ。かなしかったら、くるしかったら、くやしかったら、つらかったら、がまんを　しないで　なけば　いいんです。なくたびに、一つ一つ　強く　なるんだから。

うれしい　ときは、思いっ切り　よろこべば　いいんです。しぜんに　うれしなみだが　出てくる　もの　です。

きみたちが　なく　ことが　あるのは、きみたちが　すなおだからです。きみたちの　心が　うつくしいからです。わたしは、そんな　きみたちが　とても　うらやましいのです。

5 アサガオの たねを まいて

今日 ぼくは、うえ木ばちに
アサガオの たねを まいた。

ぼくが 一年生の とき、二年生から アサガオの たねを もらった。それを そだてて アサガオの 花が さいて、また、たねが とれた。今日 まいたのは、その たねだ。

のこりは、今の　一年生に　プレゼントしたから、一年生の　だれかが　また、まいて　くれるだろう。

考えて　みると、きょ年、二年生から　もらった　たねから、ぼくのたねが　とれて、その　たねが　また、新一年生に　プレゼントされ、その　たねから　また　新しい　花が　さいて、今年の　たねが　とれるのだなあ。そして、一年生が　秋に　とる　たねが、来年の　一年生に　わたされる。

アサガオの　たね　一つは　小さな　つぶだけど、小さな　一つのたねから、いくつもの　花が　さき、その　あと、それが　いくつもの

たねに　なり、その　たねを　もらった　人が　毎年　まきつづけたら、アサガオは、たくさんの　花を　ずっと　さかせつづけるのだろう。いのちと　いうのは、こうして　つづいて　いくのだなあ。

▲アサガオの　め

おうえんメッセージ

山折哲雄

アサガオの　たねを　もらって、土に　まいて、そだてた。それで　花が　さき、また　新しい　たねが　とれた。

たねを　まいて、やがて　花が　さいた　ときの　きみの　よろこびが、じつに　生き生きと　つたわってくる。むねを　はずませて　いる　すがたが、読んで　いて　とても　よく　わかる。

きみは、毎日の　ように　アサガオを　ちゅういぶかく　見まもり、一心に　そだてて　いる。なんとか　りっぱに　そだてようと　する　きみの　気もちが　アサガオの　たねに　通じたのだろう。

きみの　お父さんと　お母さんも、たねのような　きみを　一心に　なって　そだてようと　して　きたと　思うよ。いつの　日にか、きみが　みごとな　花に　そだつように、と　いのってね。

6　おもちゃまつり

十月五日　水よう日に、おもちゃまつりが　ありました。

体いくかんで　一年生と会った　とき、どきどきしました。でも、だんだん　なれて　きて、一年生と　なかよく　なれました。うれし

かったです。

わたしたちの コーナーには、人が いっぱい 来て たいへんでした。だって、けん玉作りコーナーなので、作るのが むずかしいからです。

でも、して いる うちに なれて きました。一年生に けん玉を 作って あげたら、

「ありがとう。」

と 言って くれました。

とても うれしかったです。
十一月にも おもちゃまつりが あります。こんどは、ほいくしょや ようち園の 人に 教えます。つぎも、がんばって 教えて あげたいと 思います。友だちが いっぱい できると いいなと 思って います。

おうえんメッセージ

久木　久代

一年生から「ありがとう」って、言って　もらって　よかったね。

「ありがとう」って、あたたかい。

「ありがとう」って、やわらかい。

けん玉を　作って、「ありがとう」って　言われて、友だちに　なれる。

「ありがとう」は、友だちが　できる「まほうのことば」かな？

7　とう校(こう)はんの　はん長(ちょう)さん

ぼくが　一年生(いちねんせい)の　とき、とう校はんの
はん長は　けんじくんでした。とう校はんの
しゅう合場(ごうば)しょまでは、遠(とお)くて、細(ほそ)い　さか
道(みち)の　かいだんを　一人(ひとり)で　通(とお)らなくては
いけません。ぼくの　家(いえ)まで、けんじくんが
むかえに　来(き)て　くれる　ことに　なりました。
ぼくが　ようち園(えん)の　ときは、ようち園の
バスが　家まで、おくりむかえして　くれま

した。ようち園の　ときは、
「小学校も　バスで　行くのかなあ。」
と　思って　いました。だから、小学校に　入る　前の　春休みに、お母さんと　妹と、何ども　歩いて　れんしゅうしました。行く　道を　まちがえたりしました。すごく　遠いなと　思いました。ぼくは、一人で　小学校まで　歩いて　行けるか、どきどきしました。お母さんも、ぼくが　おもい　にもつを　もって　小学校まで　行けるか、すごく　どきどきしたようです。

　いよいよ　小学校、毎朝　七時三十五分に　なると、
「おはよう。」
と、けんじくんが　むかえに　来て　くれます。ぼくは、ほっとしました。
　けんじくんの　家は、大きな　道の　むこうがわです。ぼくの　家ま

では、トンネルを　通って、遠回りしなければ
なりません。でも、けんじくんは、いやな
顔も　せず　むかえに　来て　くれ
ます。そして、ぼくが　おもい　も
のを　もって　いるとき、
「もって　あげようか。」
と　言って、にもつを　学校まで
もって　くれます。ぼくは、とても
うれしい　気もちに　なります。
ぼくが　三年生に　なると、けんじ
くんは　そつぎょうして　しまいます。ぼくも、けんじくんみたいに、
一年生に　親切に　して　あげたいです。

おうえんメッセージ

山本　兼一

一年生に　なって、はじめて　学校に　行く　ときは、だれでも　どきどきしますね。学校が　遠いのなら、まいごに　なるかも　しれません。とても　心ぱいでしょう。

はん長の　けんじくんも、きっと、一年生の　ときは、どきどきしたはずです。その　気もちを　わすれず、小さい　子に　親切にして　あげたのが　すばらしいですね。

親切に　して　もらった　人が、こんどは、べつの　人に　親切に　して　あげる、そうすれば、やさしい　気もちの　わが、どんどん　大きく　広がります。それが　つながって　いけば、みんなが　すごしやすい　よの中に　なりますね。みなさんも、ぜひ、親切の　わを　広げて　いきましょう。

8 さか上がりが　できたよ

二年生の　一学きから、さか上がりの　れんしゅうを　して　きました。なかなか　できなくて、学校から　帰って　きてから、お母さんと学校や　近くの　公園の　てつぼうで、れんしゅうしました。お母さんが手ぬぐいを　もって　きて　教えて　くれました。手ぬぐいを　つかうとかんたんに　できるけど、手ぬぐいなしでは　できませんでした。

学校では、中間休みや　ひる休みに、友だちと　校長先生と　いっしょに　れんしゅうを　しました。校長先生が、

「もっと　足を　むこうに。」
と　言って、足を　おして　くださいました。
そのうち、いっしょに　れんしゅうして　いた　友だちが　できるように　なって、できる　人が　ふえて　いきました。わたしは、
「もっと　がんばろう。」と　思って、毎日　ひっしで　がんばりました。手に　いっぱい　まめが　できて、とても　いたかったです。でも　一学きの　間には　できませんでした。
二学きに　なって、まだ　さか上がりの　できない　友だちが、また

校長先生と　いっしょに　れんしゅうして　いるのを　見て、わたしも
れんしゅうしました。がんばって　れんしゅう
したら　できました。校長先生に、
「はじめて　できました。」
と　言うと、
「かんどうしたよ、よく　がんばったね。」
と　言って　よろこんで　くださいました。
友だちも、
「よかったなあ。」
と　言って　よろこんで　くれました。
やっと　さか上がりが　できるように　なって、とても　うれしいです。

おうえんメッセージ

武田　美保

人が　人として　せい長する　ために　たいせつな　ことが　たくさん　つまった　作文だと　思います。

わたしが　思う　たいせつな　ことの　一つ目は、けっして　あきらめず　さい後まで　がんばりぬいた　強い　気もちの　ことです。さか上がりが　できる　日の　ことを　思い、手に　まめが　できていたかろうが、きっと　いろいろな　ことを　考え、くふうしながられんしゅうしたと　思います。人が　ゆめを　もって　それに　むかって　行く　ときには　かならず　この　道を　通ります。だから　できるように　なるまでに、どんな　ことを　かんじ、できた　ときにどんな　よろこびが　あったかを　わすれないで　くださいね。そしてもう　一つ。お母さんや　校長先生、友だちの　いつも　だれかがそばに　いて　はげまし、よろこんで　くれた　ことを　思い出し、弱い　気もちに　なった　とき、ふるい立たせて　くださいね。

9 オオイヌノフグリ・ツクシ

◆今日、オオイヌノフグリを　見つけました。オオイヌノフグリは、一かしょに　かたまって　さいて　いました。まだ　まだ　さむいのに　オオイヌノフグリが　さいて　いるので、強いんだなあと　思いました。まだ　まだ　つぼみも　あったけど、もうすぐ　したら　いっぱい　さくのかなあと　思いました。ハチも　とんで　きました。春は　もうすぐだね。

▲野原に　さく　オオイヌノフグリ

◆今日、お父さんと　さん歩を　しました。

ツクシを　見つけました。
赤ちゃんぐらいの　大きさでした。
とろうと　思ったけど、かわいそうだったから　とりませんでした。

もっと　大きく　なれば　いいなと思いました。

▲ツクシ

おうえんメッセージ

河合雅雄

るり色の　ほう石を　まきちらしたような　オオイヌノフグリ、わたしも　大すきな　花です。さい後の　二行が　とても　いい。早春の　さわやかな　けしきが　目に　うかびます。

「ツクシ　だれの　子　スギナの　子」、という　歌を　思い出しました。赤ちゃんツクシ、早く　大きくなーれ。

しぜんに　たいする　あたたかい　心、かわいい　ものを　あいする　気もちが　よく　出て　います。この　心を　たいせつにしましょう。

10 いつまでも 元気でね

わたしの 家は、大きい おじいちゃんと、大きい おばあちゃんと、小さい おじいちゃんと、小さい おばあちゃんと、お父さんと、お母さんと、妹と、わたしの 八人家ぞくです。

小さい おじいちゃんと、小さい おばあちゃんは、毎日、元気で のうぎょうの しごとを して います。朝早くから 夕方 くらく

なるまで、一生けんめい　しごとを　して　います。夏の　ハウスの中は、とても　あついです。シャツも　ズボンも、あせで　びしょぬれに　なります。おもい　にもつを　もつので、かたや　こしが　いたくなります。わたしたちには、小さい　おじいちゃんたちを、うちわであおいで　あげたり、かたや　こしを　もんで　あげたりしか　できませんが、小さい　おじいちゃん、小さい　おばあちゃんは、いつも　とても　よろこんで　くれます。

　大きい　おじいちゃんと、大きい　おばあちゃんは、もう　少しで　九十才に　なります。だから、歩くのも　すごく　おそくて、耳も　すごく聞こえにくいです。わたしも　妹も、大きい　おじいちゃんが　歩くときは、家の　中で　すわって　いても、通り道を　空けて　歩くのを

見まもります。大きい　おばあちゃんに　話しかける　ときは、できるだけ
ゆっくり　大きな　声で　話します。聞こえない　ときは、同じ　ことを
三回も　四回も、くりかえし　言う　ときも　あります。今は　まだ、大き
い　おじいちゃんも　大きい　おばあちゃんも　元気で、わたしたちと
いっしょに　あそんで　くれて　いて、いろんな　ことを　教えて　くれます。
妹と　わたしは、わたしたちが　何才に　なるまで　元気で　いて
くれるのかなあと、たまに　考える　ときが　あります。一日でも　長
く、元気で　いて　ほしいと　思います。

おうえんメッセージ

松尾心空

とても　あたたかい　家ていの　ようすが　思いうかんできて、すばらしいと　思いました。

むかしは、どの　家も　大家ぞくでしたが、今は　おじいちゃん、おばあちゃんと　いっしょに　くらす　ことが　少なく　なりました。でも　みぢかに　むかしの　くらしを　知って　いる　人がいてくれてこそ、古い　しきたりや、できごとも　知る　ことができ、また、いろんな　生活の　ちえも　教えて　もらえるのです。たとえば、おみそしる、おつけものの　あじ一つに　いたるまで、むかしから　つたえられた　しかたと　いう　ものに　よって、その　あじわいが　いかされるのです。

ほんとうに　すばらしい　家ていです。家ぞくの　つながりをこれからも　たいせつに　しましょう。

心の広場

◇心に　のこった　学しゅう

◇しんけんに　考えた　こと、だいじだなあと　思った　こと

☆今(いま)の　わたし、これからの　わたしに　ついて　思って　いる　こと

引っこしを して 間もない ころ，むすめが 小学校 入学を 目前に した4月の ことです。 まだ お友だちも いなかったので わたしと 二人で 近じょの すてきな こうえんに あそびに 行きました。すると 小学校３～４年の 男の子が 楽しそうに おにごっこを して いました。むすめが うらやましそうに 見て いたら 一人の 男の子が「いっしょに あそぶ？」と 声をかけて くれ，なかまに 入れて くれました。そして 長い 間，やさしく あそんで くれました。活ぱつな 年ごろの 男の子が まだ 小さい むすめに 目を やり，やさしく 声を かけて くれた ことに とても かんどうしました。きっと 親ごさんが よい 教いくを されて いるんだろうなと 思いました。

２年生の 男の子，３年生の 女の子の 姉弟。毎朝 いっしょに 通学はんの しゅう合場しょへ 二人で 行きます。おしゃべりしながら，けんかしながら……。でも 出会った 人には 大きな 声で あいさつして くれます。「おはようございます！」

きょ年 そつ園した きみ ランドセル しょって 学校の 帰り道 「先生ー!」って 元気な 声。日に 日に たくましくなっていく 声。キラキラした ひとみの きみ。いつまでも どうか かがやく みらいで ありますように……。

ふみん ほっとメッセージ(2)
こんな すてきな 子どもに 出会いました

夏休み!? 子どもは ニッコリ!! 親は へぇー!! うちの 近じょは そうでもないよ!年れい まぜこぜ 男女も いろいろ，大人も，おじいちゃん おばあちゃんも 虫さがし。セミに カナブン，チョウに あお虫。カエルに バッタ，カマキリ。「ヤモリも かっていいかー?」「地ぐもだよー」と みんなで わに なり，目 キラキラ。すてきな 時間を ありがとう。

だれにでも 元気に あいさつする 子どもに 出会いました。

「お母さん!家ぞくて いいよなあ。だって家ぞく おたがいの 気もち わかりあえるもんー。」って 8才の むすこが 言った ことば……。家ぞくも，たにんも だいじに できる りっぱな 人間に なろうね!
お母さんより。

京都府あんない

〈ふの鳥〉
オオミズナギドリ
魚つり
きょうがみさき
あみの
丹後半島
いね
くみはま
みねやま
きたきんきたんごてつどう
あまのはしだて
マリーンピア
貝ひろい
日本海
兵庫県
みやづ
またのぞき
おおえやま
JRおばません
にしまいづる
ひがしまいづる
JRまいづるせん
福井県
京都府
ふくちやま
あやべ
おおのダム
滋賀県
ひよしダム
JRさんいんほんせん
くらまやま
京都市
JRこせいせん
ひえいざん
琵琶湖
ちかてつ
かめおか
あらしやま
にじょう
きょうと
JRとうかいどうほんせん
JRとうかいどうしんかんせん
けいはん
きんてつ
うじ
JRならせん
大阪府
木津川でカヌー
北
きづ
かも
かさぎ
三重県
奈良県
〈ふの木〉
きたやますぎ
〈ふの花〉
しだれざくら
〈ふの草花〉
さがぎく
なでしこ

とびらの むこうへ

あなたの いのちも
わたしの いのちも
ずっと ずっと むかしから
とぎれることなく
今日(きょう)の 日(ひ)を むかえている

自分(じぶん)の むねに
手(て)を 当(あ)てると
心(しん)ぞうの 音(おと)が ひびき
友(とも)だちと
あくしゅを すれば
その 手の ぬくもりが
たがいに つたわる

おうちの 人(ひと) まわりの 人
おじいさん おばあさん
もちろん あなたも わたしも
たいせつな たいせつな
たがいに たった ひとつの
いのちと ともに 生(い)きている

とびらの むこうへ
歩(ある)き出(だ)そう
あなたの いのち かがやかせて
わたしの いのち かがやかせて

京の子ども 明日へのとびら 【小学校 低学年編】

● 執筆者
永田萠　瀬尾まいこ　中西進　今江祥智　澤田ふじ子　日野原重明　梅原猛　内田奈織　江口克彦　永田和宏　畠中光享　梶田真章　河合雅雄
西本吉生　山折哲雄　久木久代　山本兼一　武田美保　松尾心空

● 挿絵・図版
永田萠　おおさわまき　山崎牧子　長谷川義史
狩野富貴子　きたむらイラストレーション　畠中光享
亀谷陽子　木元研次　塩田守男　よしのぶもとこ
いそのみつえ　植田愛子　永井ひろし　みやざきひろかず

● 写真
Nature Picture Library　ネイチャー・プロダクション
テイチクエンタテインメント　データクラフト　OPO

発行日　平成28年3月31日
発　行　京都府教育委員会
〒602-8570 京都市上京区下立売通新町西入

© KYOTO PREFECTURAL BOARD OF EDUCATION　2007

1ねん　　くみ	
2年　　くみ	

VEGETABLE OIL INK

この資料集は植物性インキで印刷しています。